

2月の言葉

袖ひちてむすびし水のこほれるを

春立つけふの風やとくらん

「古今集」 紀貫之

この和歌は、立春の日に紀貫之が詠んだものです。「夏に袖を濡らして水を汲んだ川が、冬になって凍ってしまったが、立春の今日の風が、今頃溶かしているだろう。」といった感じの歌です。まだまだ、暖かさが実感できないこの頃ですが、お正月気分もとれ、今年が始まって物事が動き出していることを感じさせてくれますね。

また二月は一年のうちで一番短い月。これは、暦の始まった古代ローマでは、三月が年の始めで、最後が二月。だから一年の日数を調整するためだと言われていています。確かに日数は短いですが、いろいろと行事があり忙しい月ですね。ぐずぐずしていたら、あっという間に三月。二月は逃げる。寒さで丸まっていた背中、心をピンと伸ばし、来る新しい生活に向けて、油断せず濃密な毎日をご過ごしましょう。

春よこい、早くこい♪♪

己亥年如月朔日